

研究課題

- ・海産魚類の卵質評価法の開発
- ・機能水の水産増殖への応用
- ・魚類飼育の水質評価と環境改善
- ・外来魚の生態解明，駆除技術の開発

- ・希少魚類の生態解明・保全技術の開発
- ・熊野灘沖に來遊するマッコウクジラの生態（回遊状況と海域の利用形態）
- ・スナメリの座礁・漂着状況の調査
- ・イルカ類の人工繁殖技術の開発



魚類増養殖を効率的に行うには、良質の種苗の確保と確保した種苗の健全な育成が必要です。そのための基礎的研究として、現在は、どのようにしたら良質の卵をより早期にかつ簡便に選別できるかの検討（すなわち、簡便で精度の高い卵質評価法の開発）、およびサケマス卵に発生するミズカビ病防除対策の一環として、機能水（弱アルカリ性水など）を用いた安全かつ安価な受精卵処理法の開発を行っています。

また、ブラックバスなどの外来魚（元々その水域に生息しない魚類）は、しばしば侵入先の水域の生態系を大きく攪乱し、さらに水域の生産性を低下させるなどの漁業被害も生じさせます。そこで、外来魚が原産地と異なる侵入先の水域でどのような生活をしているのかを解明するとともに、その生態を利用した、環境への負荷の少ない駆除・管理技術の開発を行っています。

我々が自然環境を改変しながら発展してきた陰で、現在多くの生物が絶滅の危機に瀕しています。そのような魚類について、その生態を解明するとともに、彼らを絶滅の危機から救い、人類と共存するための道を模索します。

これら魚類を対象とした研究以外に、三重県沖の海、すなわち、伊勢湾、熊野灘に生息する鯨類であるスナメリやマッコウクジラを対象として、その基礎生態を明らかにするための調査・研究やイルカの人工繁殖技術の開発もを行っています。